

公益財団法人 日本城郭協会

平成25年度 事業計画

平成25年3月28日

1. 公益財団法人記念シンポジウム開催
25年4月の公益財団法人移行を記念して、奈良大学の千田教授（現協会評議員）著書の「信長の城」をテーマとしたシンポジウムを企業等の協力を得て関東・関西でそれぞれ開催する。現在の城郭研究に一石を投じる内容をめざし、又生涯学習に新しい視点を提供するシンポジウムを企図している。開催は今秋を予定している。
同時に「信長の城」の現地研究会開催も検討する。

2. 学術委員会の発足
公益財団法人化に伴い、国内・外の城郭の調査・研究の専門性を高めるために「学術委員会（仮称）」を発足させる。

2. 教育事業「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」の開催
「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は平成14年度からの学校における総合的学習の登場と、体験学習の重視に応じて開始したが、教育関係者・児童生徒から支持をいただき、大きな教育的成果を上げ、コンテストでは文部科学大臣賞を授与している。本年度も朝日学生新聞社・公文教育研究会と共催するが、この二つの事業は公益財団法人移行記念事業として一層の充実を図る。年度末には報告書を刊行する。
2. 「城検定事業」の拡大・充実化
文化遺産としての城郭への関心が高まる中で、城郭ファンからの要望が多い「城検定」を本年度から開催する。出版取次最大手の日本出版販売（株）の全面協力を得て、東京・大阪ほか開催するが、生涯学習の視点から充実した内容の検定を目標としている。
3. 「100名城スタンプラリー」の継続
平成19年度に選定した「日本100名城」と、この名城を探訪するスタンプラリーは大変好評で、城郭探訪者の増加と文化遺産としての城郭再認識につながっている。本年度も出版社・テレビ局などと連携してこの事業をさらに推進すると共に各城のスタンプ補充体制を強化する。

4. 「ヨーロッパ100名城」の社会的認識の向上
「ヨーロッパ100名城」の選定と公式ガイドブックの刊行は社会的な関心を集めたが、引き続き生涯学習に役立てるため「ヨーロッパ旅行企画」など活用方法などを提案・広報を推進する。その一環としての登城認定証の一層の周知をはかる。
5. 会員・名城登城者間の交流強化と会報・ホームページの充実
会員・名城登城者へのサービスとコミュニケーションの強化を図る。そのための情報サービスとしての会報「城郭ニュース」の年4回の発行を堅持し、城郭に関する新しい研究成果や話題を提供する。ホームページも、協会の基本情報の開示や城郭ファンとの交流の場として充実を図る。さらに会員・名城登城者の交流と城郭文化発展を目指す場として「名城登城者クラブ」の新設を検討する。
6. 公益法人移行への手続きと体制強化
新法人制度移行への方針の決定と申請手続きを完了し、秋に正式申請する。これに対応するため事務局体制をさらに強化する。